

凄腕触手。
ネ夕切れ小説家と



R18
ADULT ONLY



「優しく這い回るそれらは
まるで別の生き物のようで、
触れられた部分に
甘い痺れのような快感を残した」

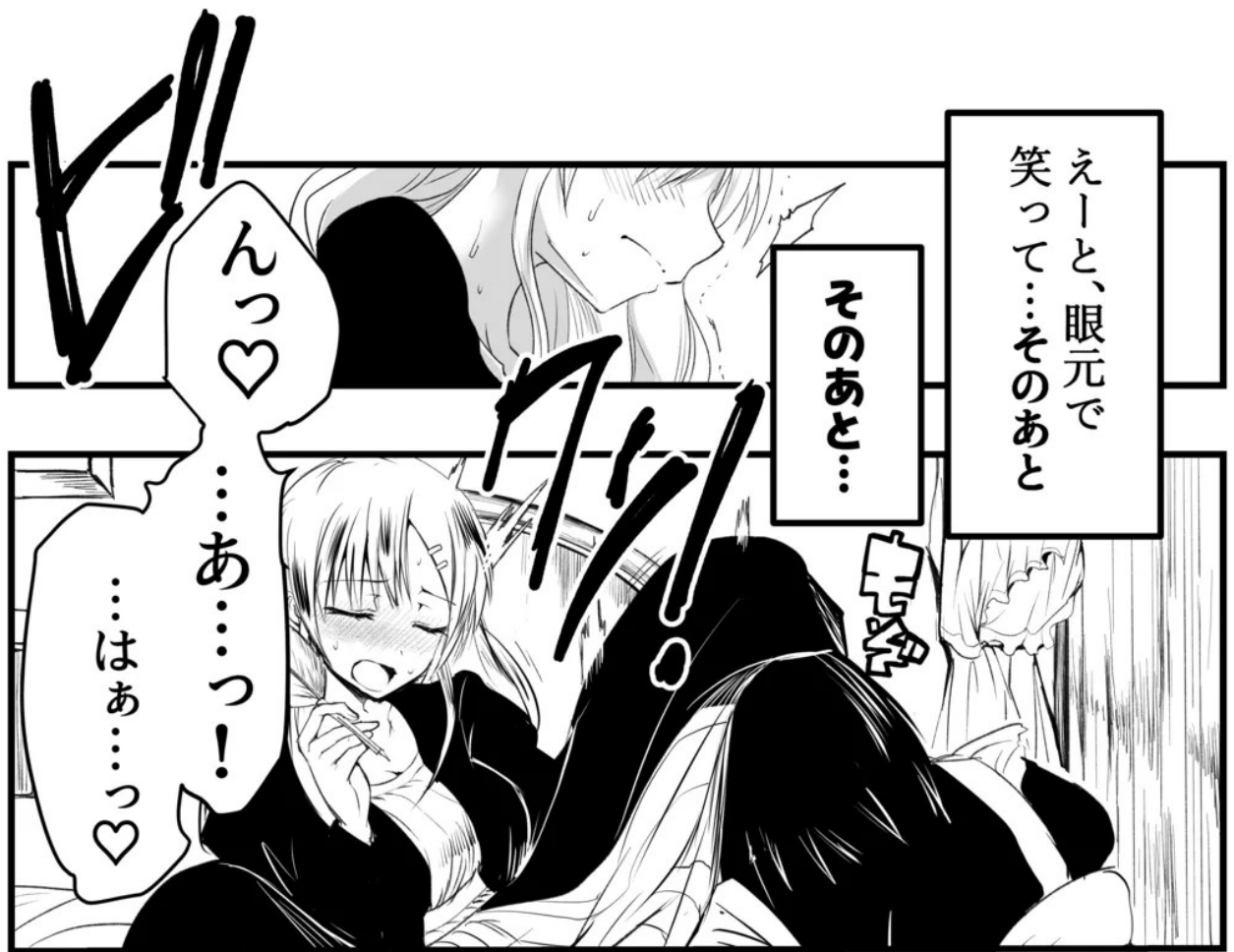
「彼女の舌が私の秘所をなぞり
彼女の指が、私の肢体を舐めまわす」



「まるで腕が
何本もあるようだ」と
吐息交じりに呟くと
彼女は眼元で笑った」

「服の下から聞こえる
くぐもった水音は、
彼女の動きに合わせて
粘り気を増していく」





えーと、眼元で
笑って…そのあと

そのあと…

んっ♡

…あ…っ！

…はあ…っ♡



…今回はこれくらいで
よろしいでしょうか
お嬢様

は。ん。



いつも
ありがとう、エレナ

今日も大変満足度の
高いプレイだったわ……!

恐悦至極



そちらはご満足
いただけたようで
なにより

…なの
ですが



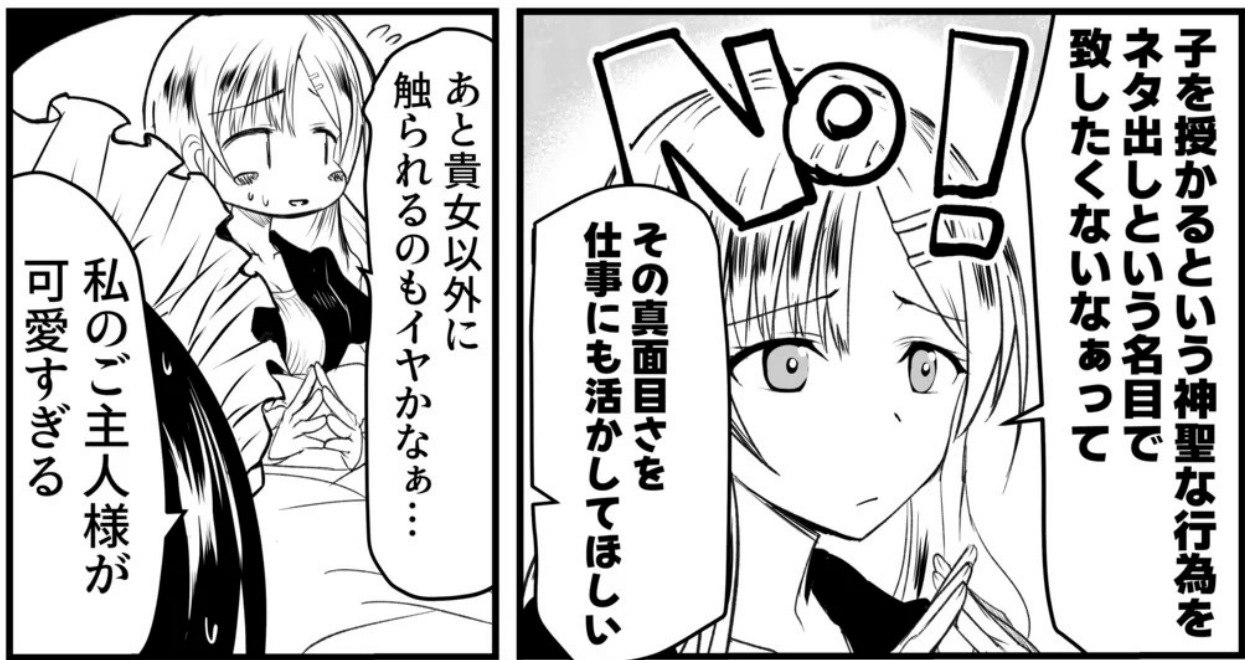
……
実はあんまり……



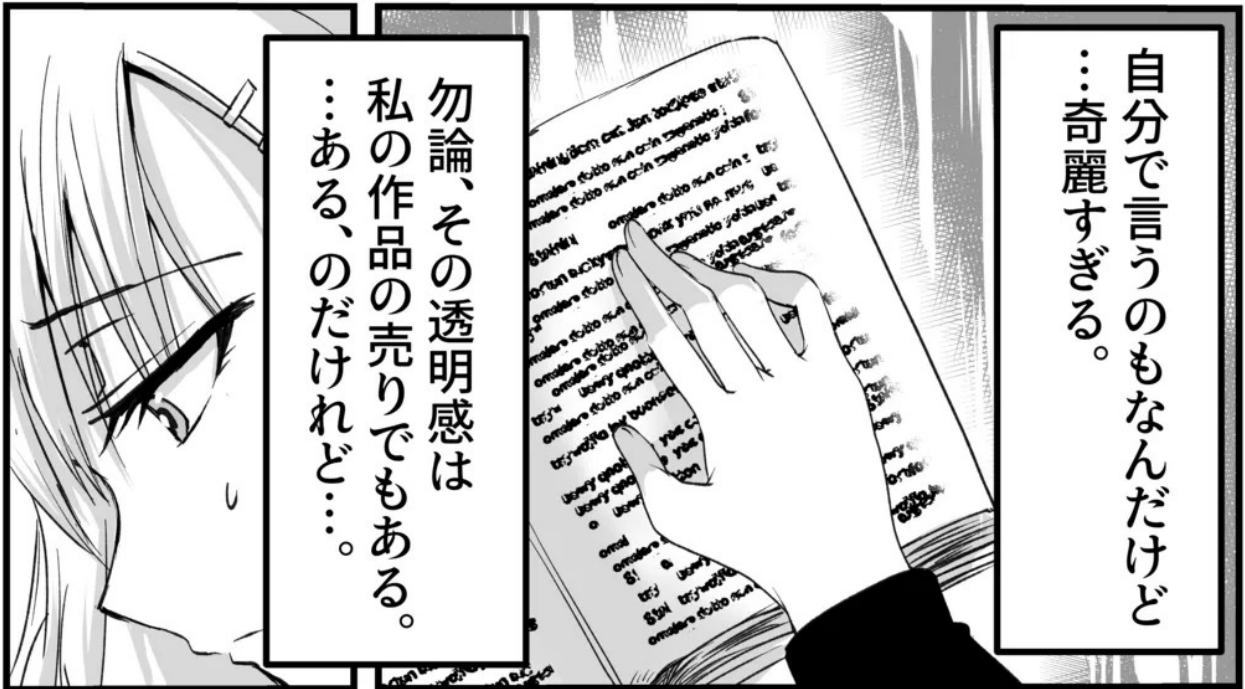
目的としていた
小説のネタは

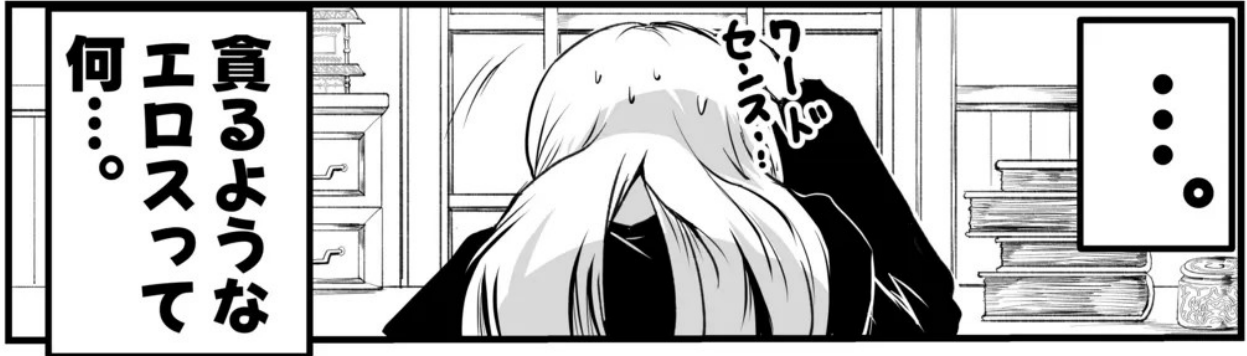
出ましたか?









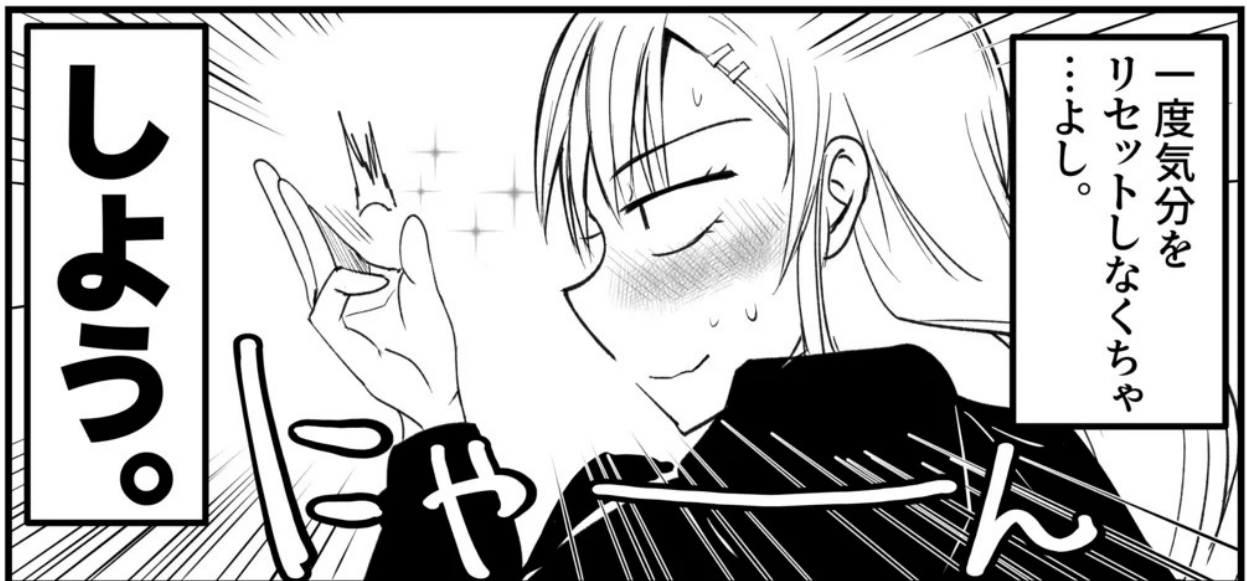


貪るような
エロスって
何…。



快樂墮ち…野生…
汗だく…倦怠感…
同時多重責め…
弱点集中砲火…

目標を
センターに入れてスイッチ…
あ、ダメだ頭悪くなってきた



一度気分を
リセットしなくちゃ
…よし。

しよっぴ。



何も言っていないですよ。

してないよ大丈夫!!



ウエイ!?



お嬢様、よければ
その
地下室へお越し
いただけますか？



先ほど、それを
引き取ってまいりました

実は以前より
ギムレットさんに、
お嬢様の役に立ちそうな物の
作成をお願いしています

で、結論から言いますと
凄かったです

何が？

さすが天才錬金術師を
自称するだけの
事がありました

しかし、それはあくまで
私の感想ですので

お嬢様ご自身で
どうされるかを
ご判断いただきたいのです

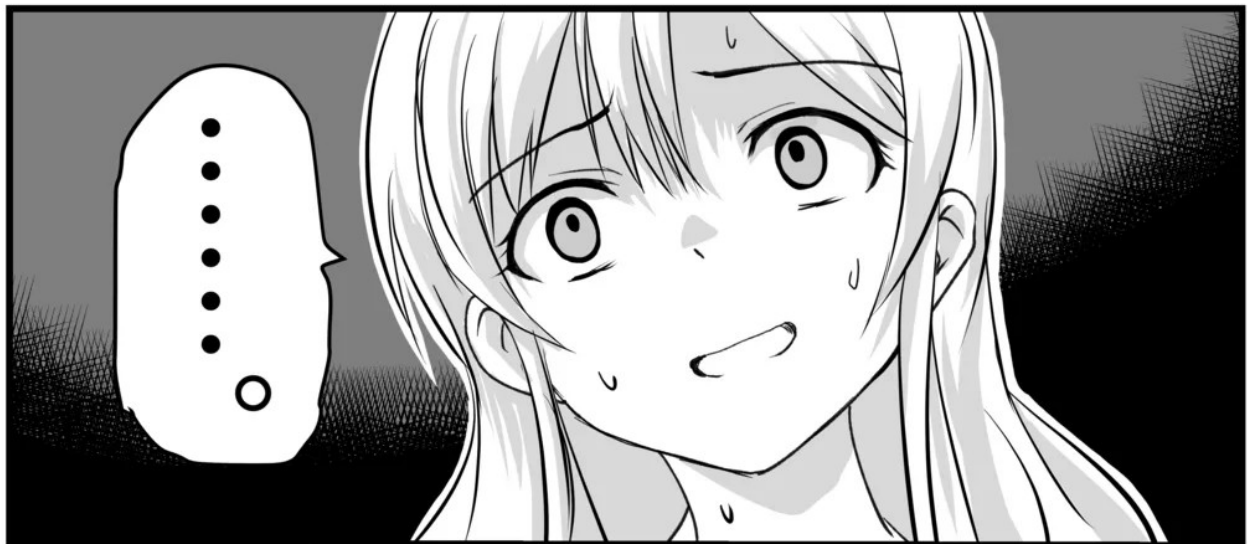
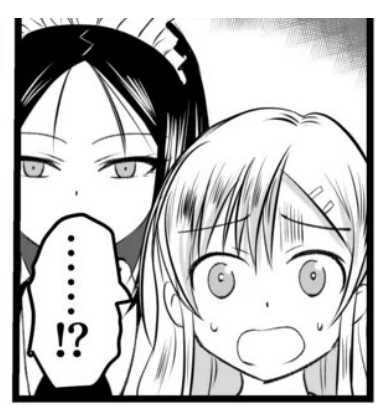
断っておきますと、
命に関わったり
危害を加えるといった事は
決してありません

……ただ

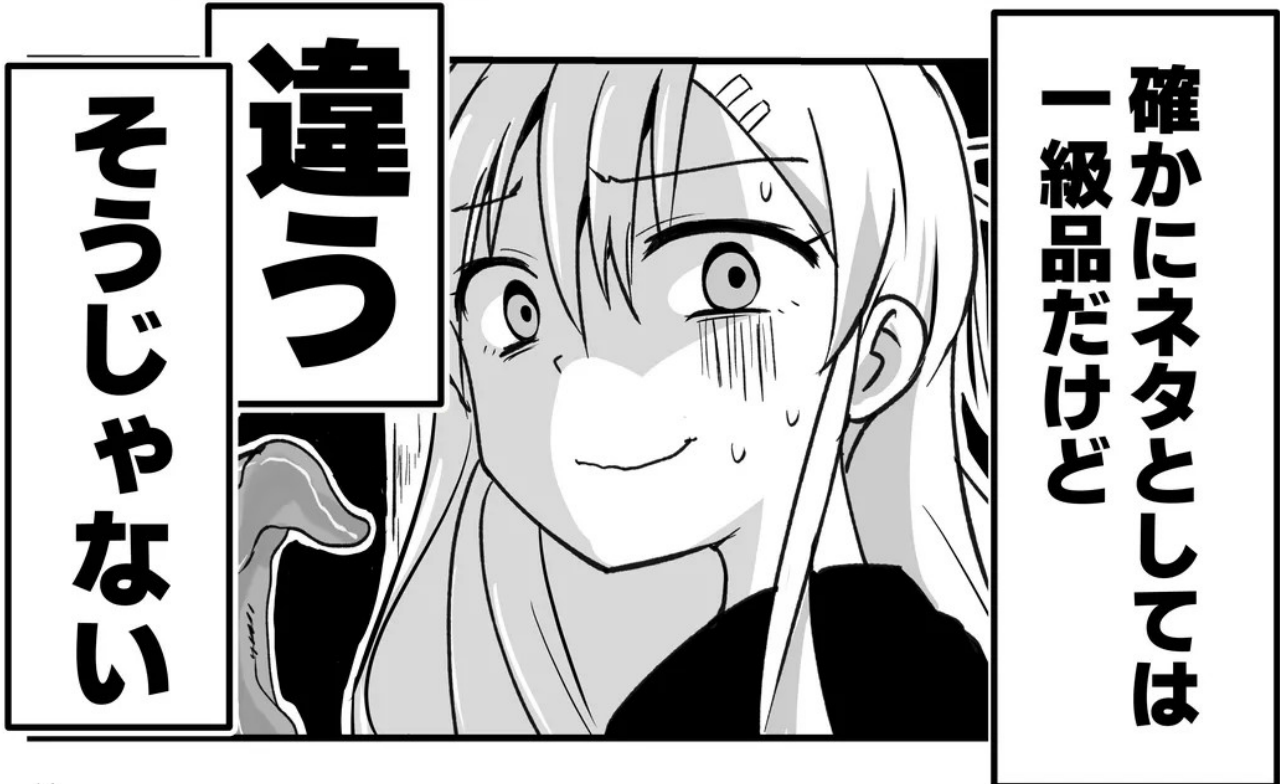
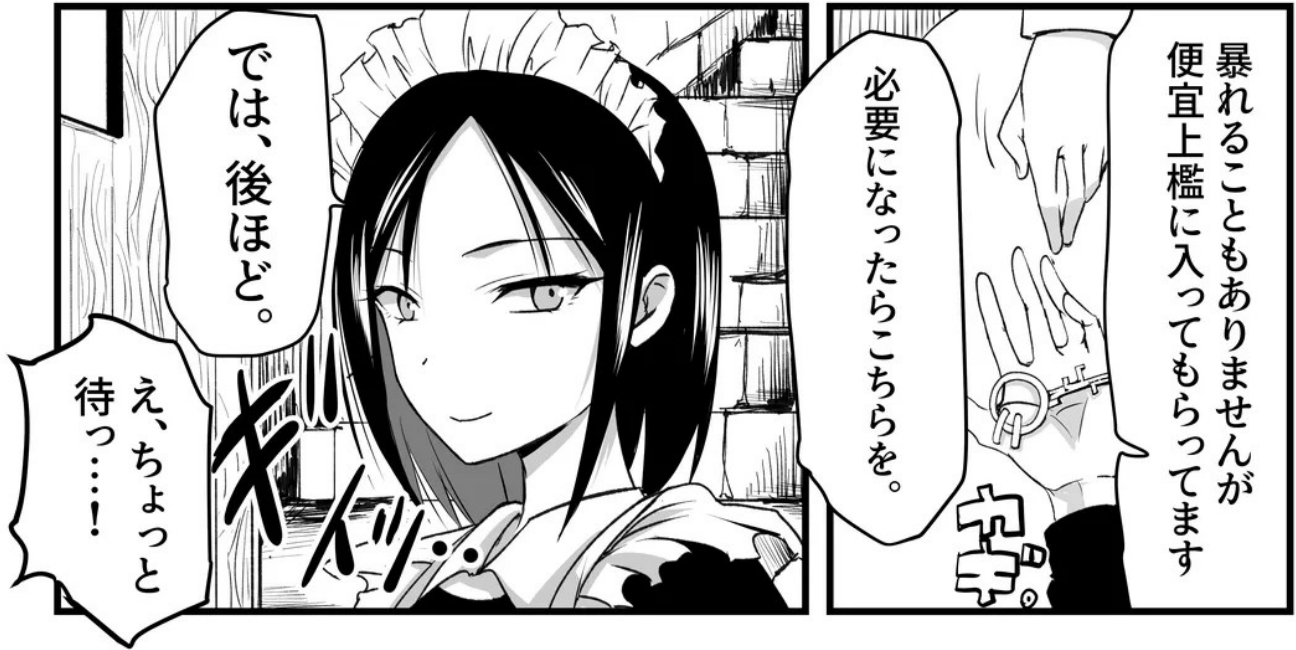
少々外見に
難はありますが…



錬金術と魔法技術を
応用して造った魔法生物？
…らしいです



この子はえっちな創作に
役に立つという事…?'





そんなにお上手
なのかしら…。

うっわあ~~~~…
この子としたの?
エレナ…。



ちら



あの子が
認めるレベルの
技術…かあ

気にならないと
言ったら
ウソになるけど…

ちよい
ちよい

か
か

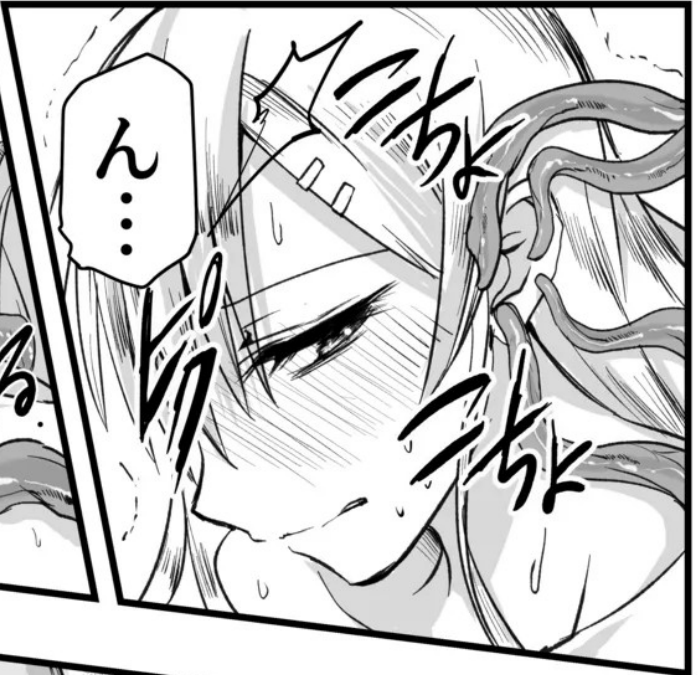


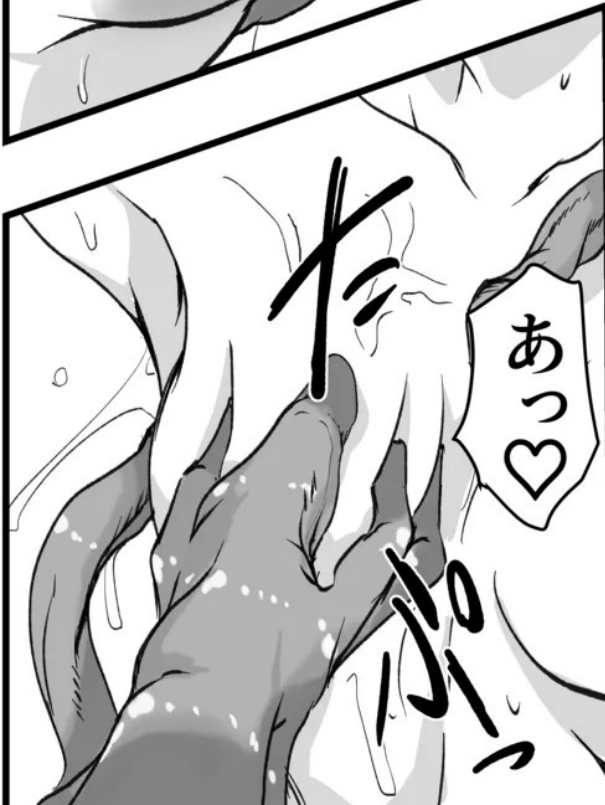
…そうよね
創作のためだし

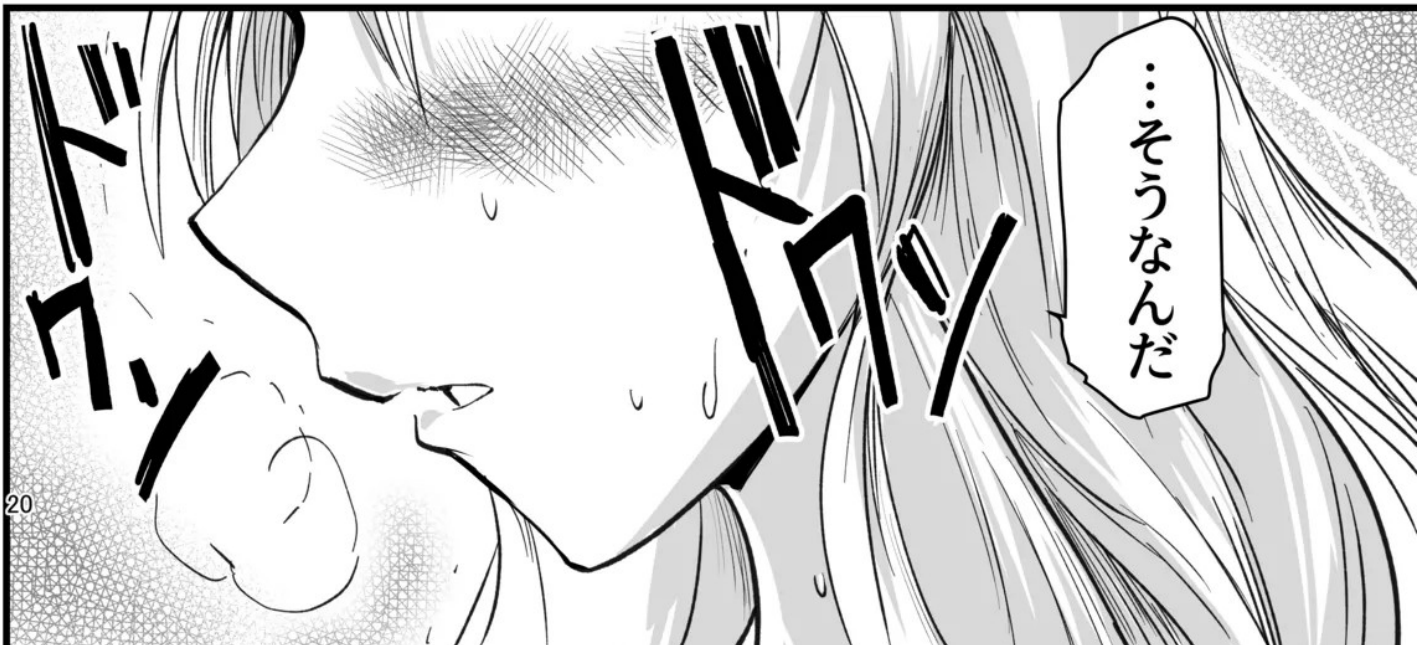
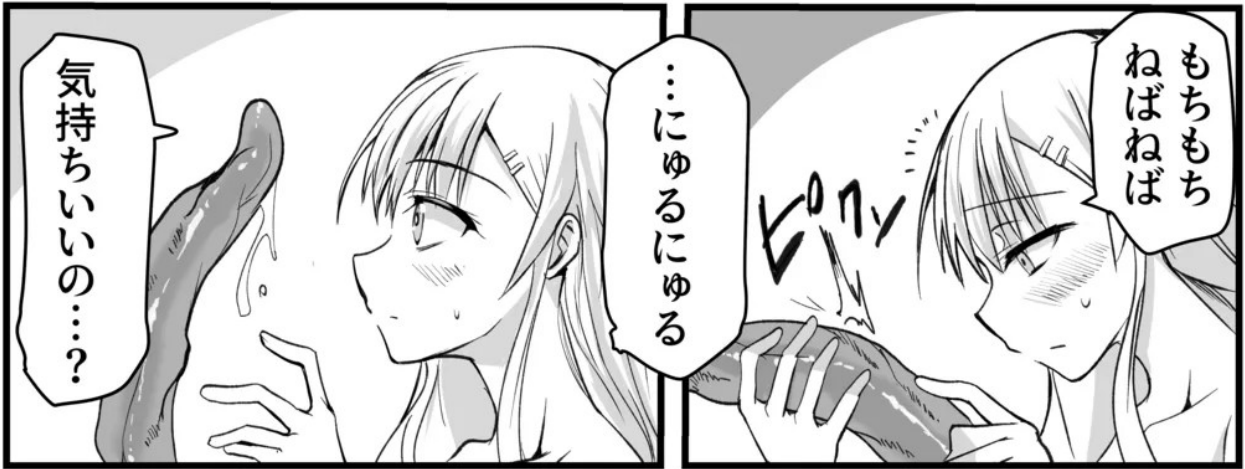
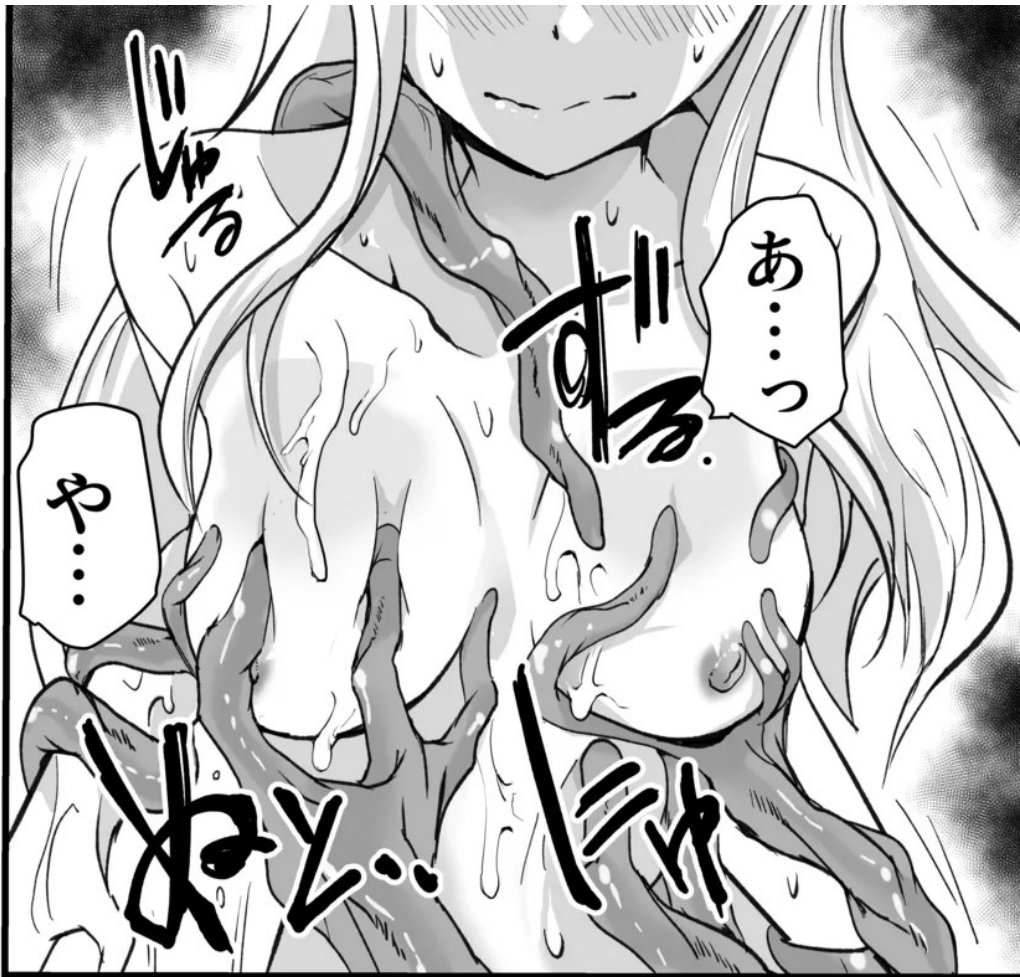
ちよつとだけ…
か、確認だけ
してみようか…!

ドキ
ドキ

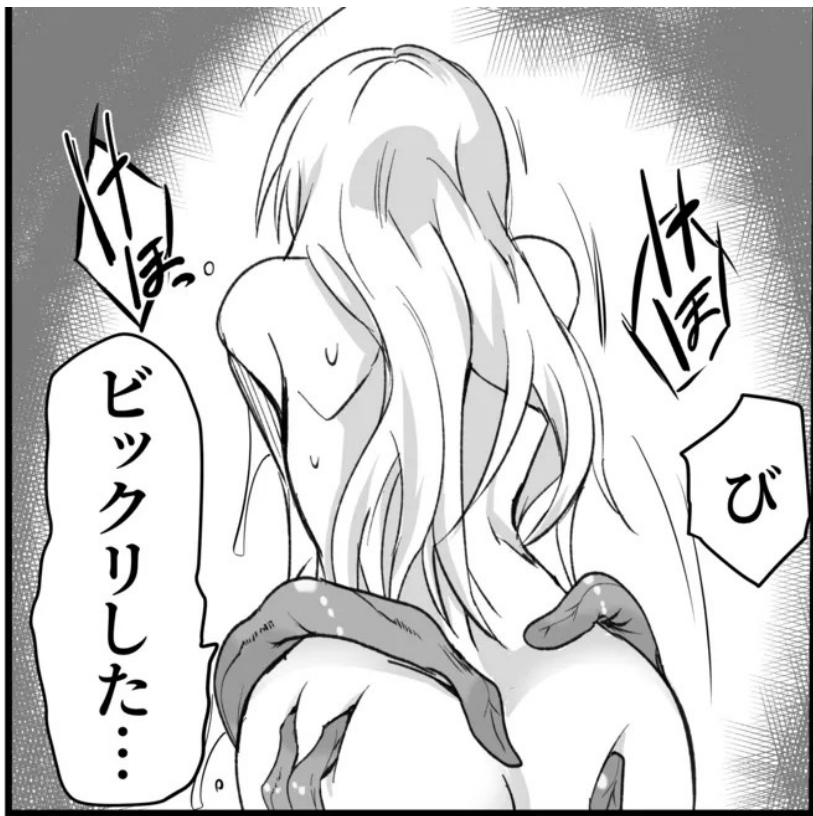






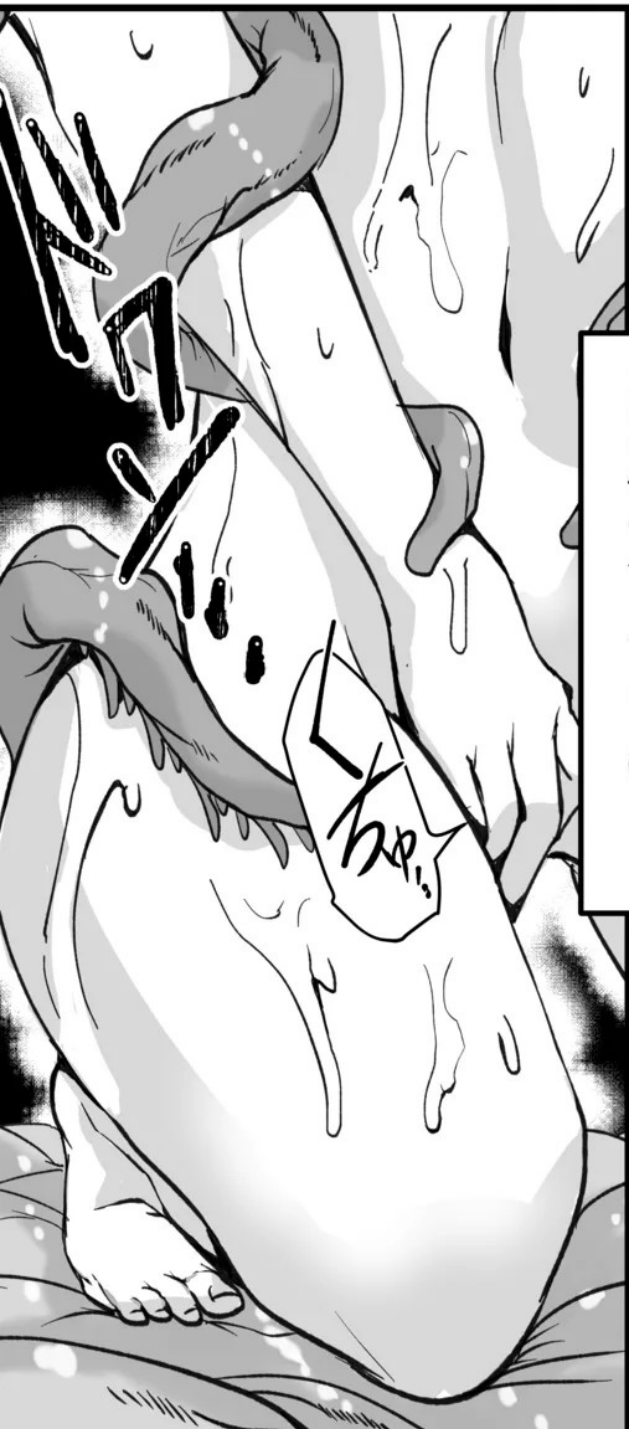






凄い…
これが射精…!

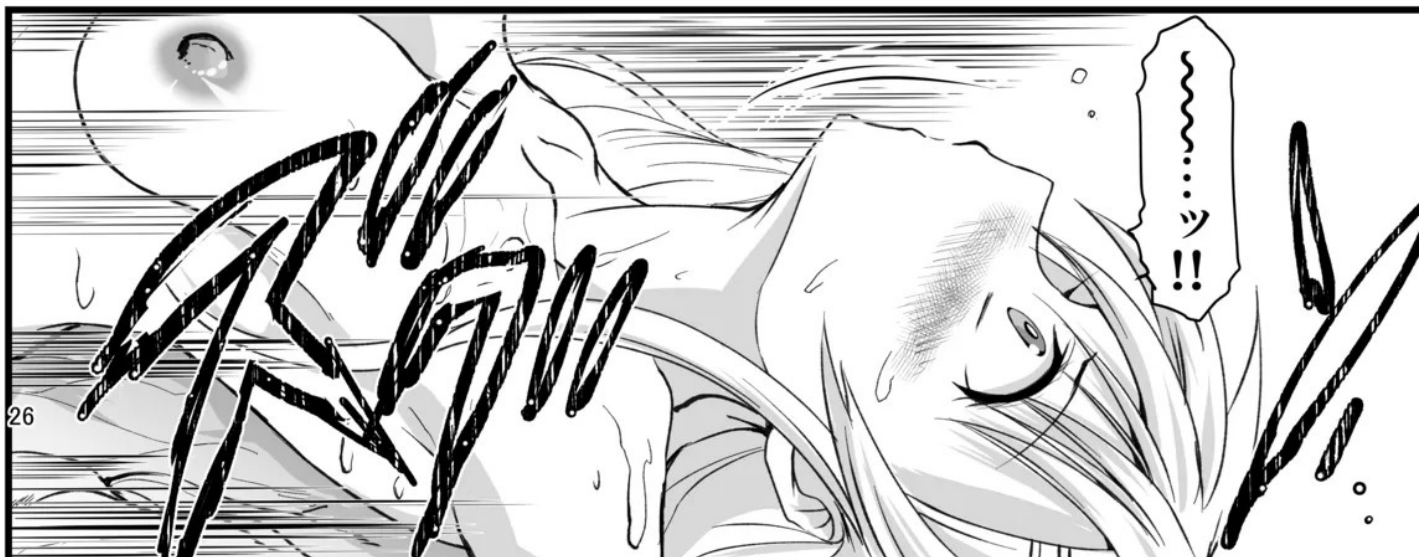
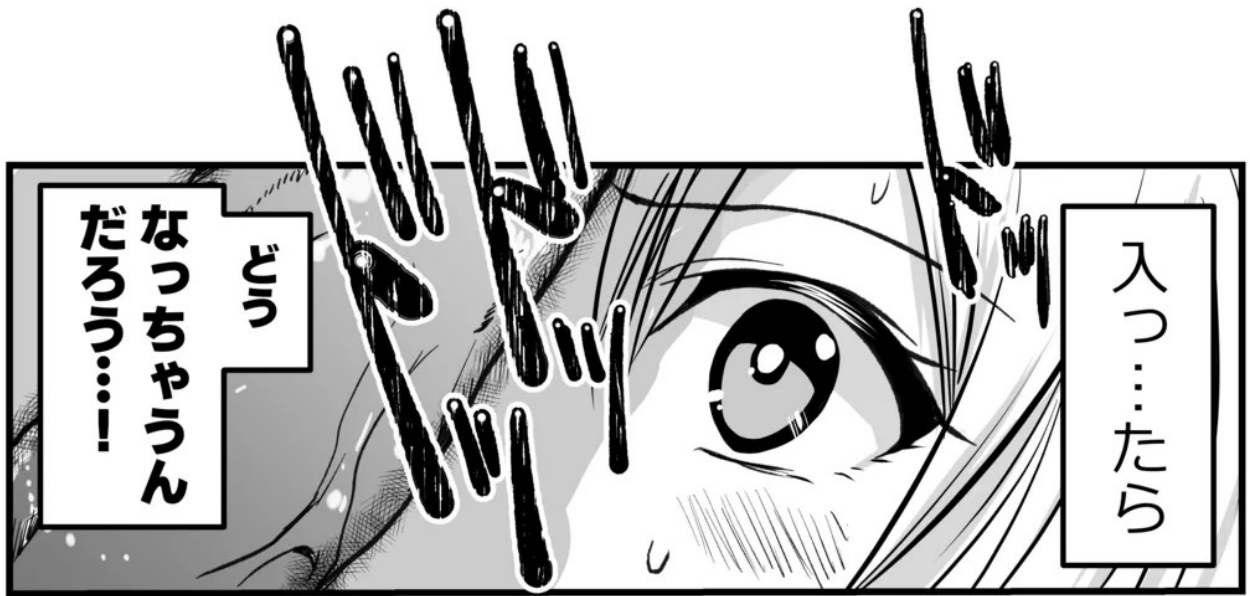




あれが入るの？



わあ、泣立派…





っは♡

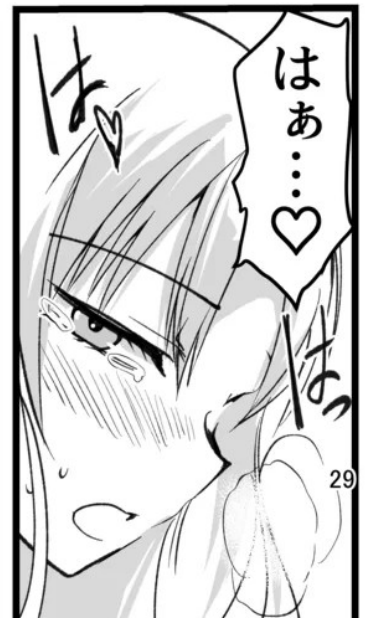
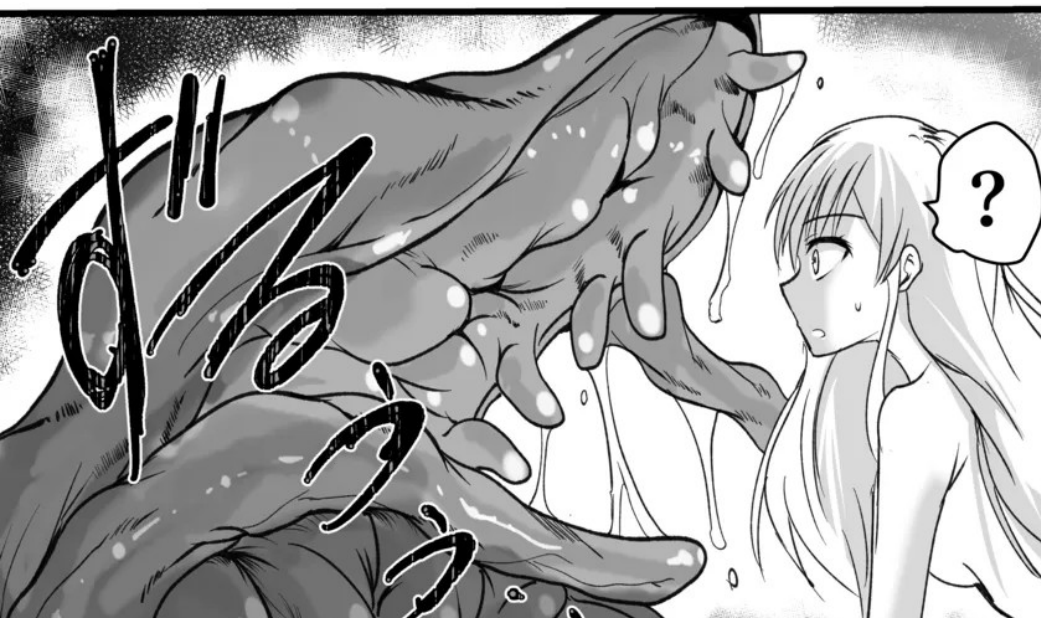
あ

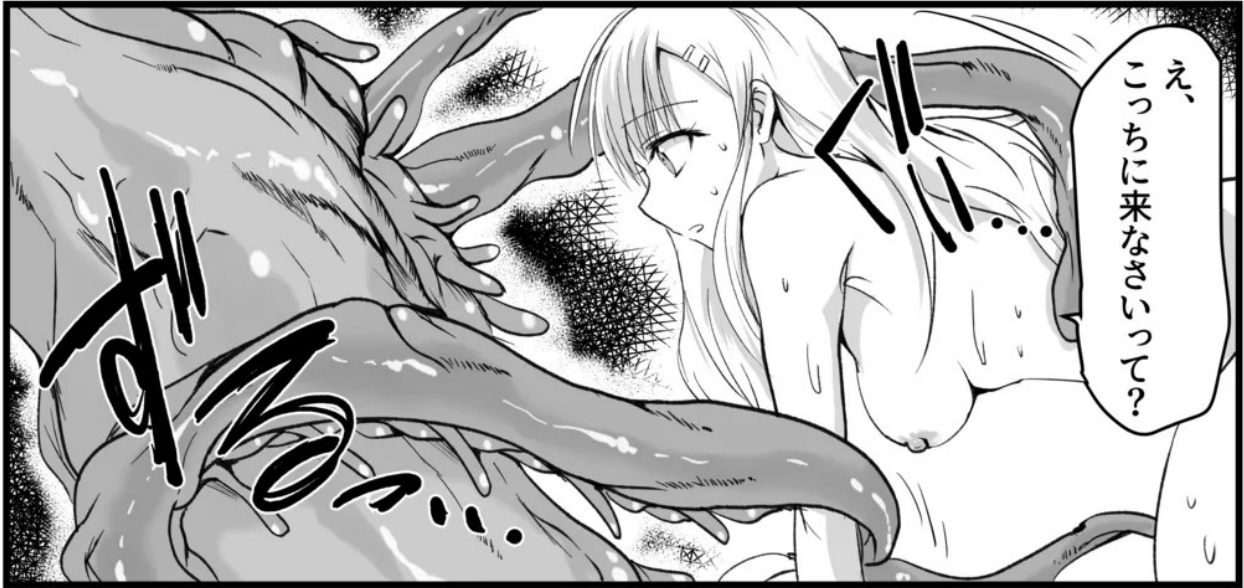
あや

ああ...♡

ん

















うあ……？

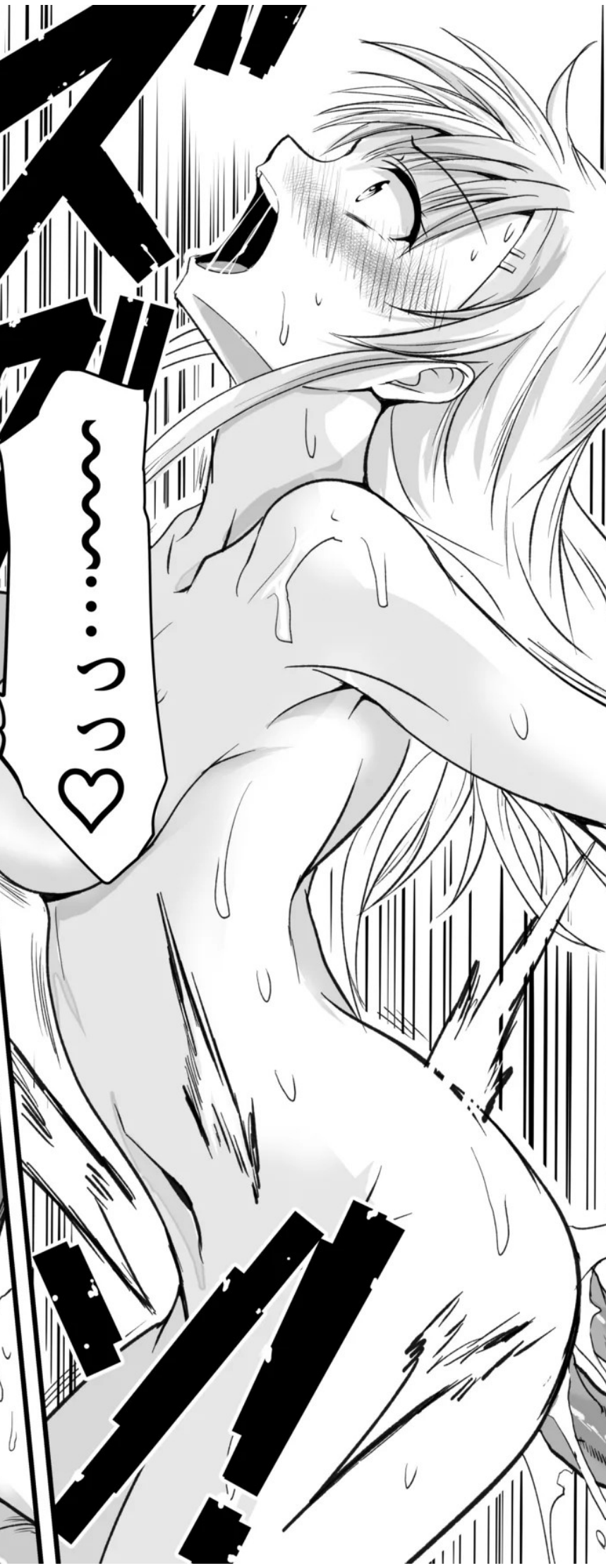


違う

うそ……痛くない

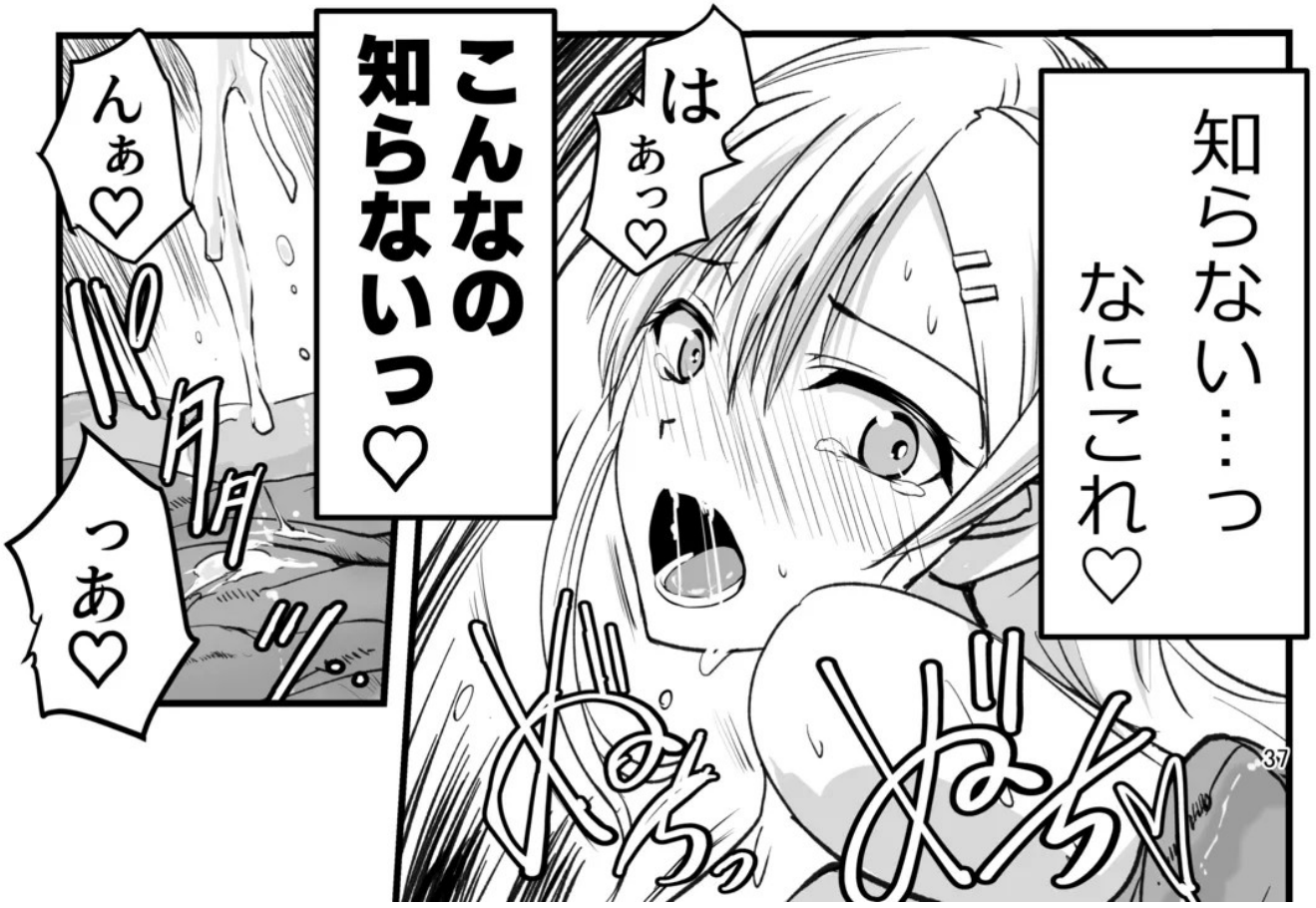


気持ちいい……



……♡

……♡





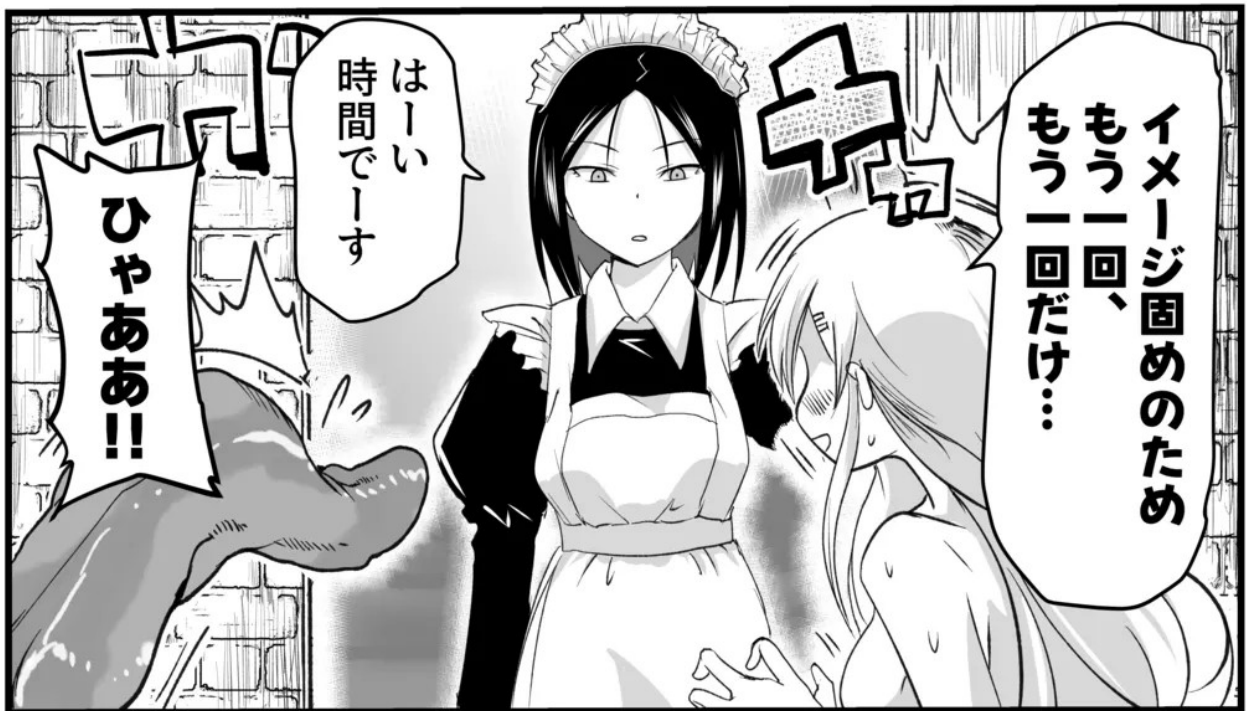
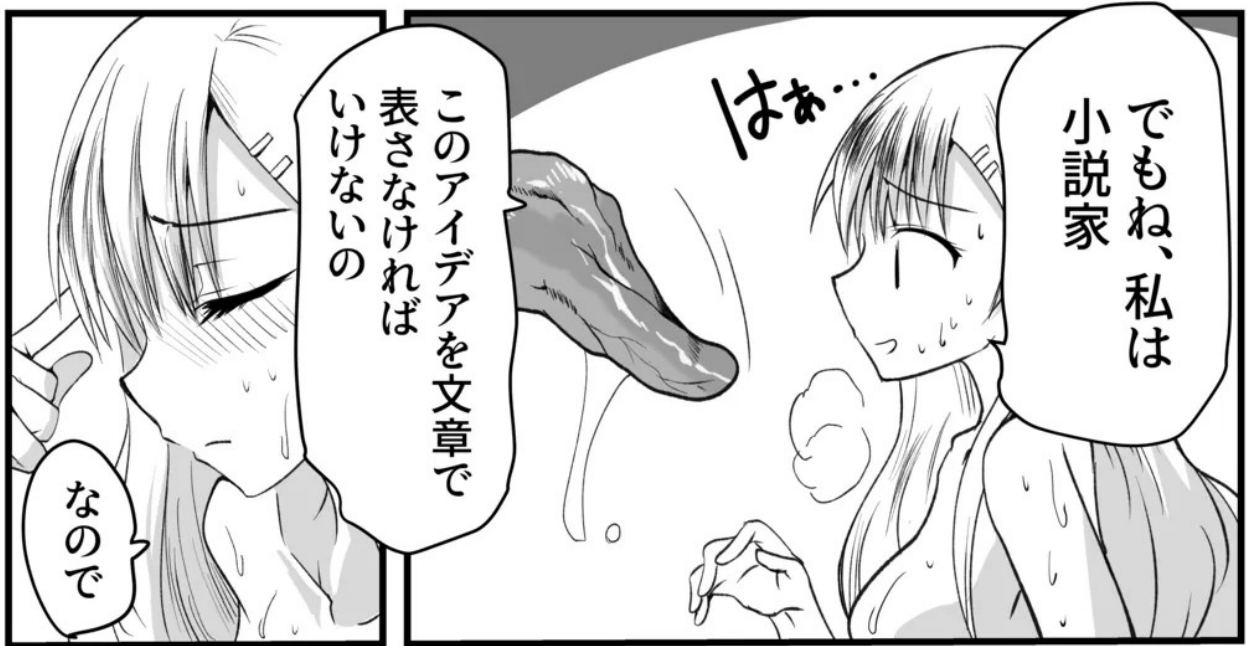
っあ!!

あ♡

ああ……!♡







※この物語はフィクションです。
※18歳未満の方の閲覧は固く禁じます。
※無断転載、複写、複製、インターネット上への
アップロードを禁止します。

